

西成区「あいりん地域のまちづくり」 第30回労働施設検討会議 議事概要

1 日 時 平成30年5月28日(月) 午後7時10分～午後9時10分

2 場 所 西成区役所 4階 4-7会議室

3 出席者

(有識者6名)

福原大阪市立大学大学院経済学研究科教授
寺川近畿大学建築学部建築学科准教授
ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長
織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事
永橋立命館大学産業社会学部教授
白波瀬桃山学院大学社会学部准教授

(行政機関17名)

大阪労働局 大久保会計課長補佐、宮田職業対策課長補佐、ほか2名
大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、中村課長補佐、ほか6名
西成区役所事業調整課 安間課長、室田課長代理、狩谷係長、ほか2名

(地域メンバー12名)

川村萩之茶屋第2町会長
田中萩之茶屋社会福祉協議会会長・萩之茶屋第5町会長
松繁釜ヶ崎資料センター
西口大阪国際ゲストハウス地域創出委員会委員長
山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長
村井西成区商店会連盟会長
山田NPO法人サポーターズハウス連絡協議会代表理事
吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表
本田釜ヶ崎反失業連絡会共同代表
山中釜ヶ崎日雇労働組合委員長
野崎全日本港湾労働組合関西地方本部建設支部西成分会代表
稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

4 議 題

・本移転施設の機能検討のまとめについて

5 議事

(→:ご意見等、国:大阪労働局、府:大阪府、セ:西成労働福祉センター、区:西成区役所)

府 定刻となりましたので、ただいまより第30回労働施設検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、夜間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

府 今回、第30回労働施設検討会議となりますが、早いもので機能の検討も8月を迎えますと2年となります。6月までに一定ハードに関わる検討を終えたいと考えております。ハードに関係しないソフト部分の機能については、引き続き、ご意見を賜りたいと思っております。予定が若干押しておりますけれども、6月の会議での機能検討の取りまとめに向け、本日も

どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

有 この会議をしっかりとやりながら、本移転に向けてみなさんと一緒に良いものを作って行くということで議論を進めてきたいと思っています。

次第に記載していますが、前にみなさん方から前回いただいた内容を整理して、これをベースにやって行くことになるかと思えます。現在、本移転の施設の機能ということで昨年から6つの機能について議論して来ました。6つというのは、整理一覧の右のところにも項目として挙がっていますが、1つ目に使い勝手の良い求人・求職システム、2つ目に多様な相談機能の充実、そして多様な求職者ニーズに対応という、こういう機能については、この間ずっと議論して来たかと思えます。そして、これに限らない機能ということで、この間その下に挙がっていますが、センター機能のPR、それから地域の顔としての機能、そしてセンター50年の歴史を今後活かす取組みということですね。特にこの3つの議論も結構煮詰まって来たかという風に思っております。それを今日はしっかりと議論して行きたい。さらに次回6月でいったんこの議論をまとめて行こうという風に思っております。それに向けて前回みなさんにお話いただいたものを有識者の方でまとめていただきましたが、今日は議論を深めるということでご理解ください。それからその後は規模の話をして行きますが、機能について、さらに具体的ないろんな議論も必要かと思えますので、必要に応じて7月以降もやって行きたいと思っています。そういうことで今日はみなさんのご意見をさらに深めるということでよろしくお願い致します。

続いて、前回の振り返りを簡単に行なっておきたいと思えます。前回はこの3つについての議論をかなりやったので、提案の一覧の部分などでもっと簡単に振り返りを行ないたいと思えます。資料に議事概要案があるかと思えますが、膨大ですのでそれぞれ頭の部分だけお示しして、ということをご理解いただきたいと思います。例えば、現センターの場所には労働施設も大事ですが、文化センターのようないろいろなものを入れるのがいいのではといった意見がありました。それから4ページから6ページの辺りですが、建設労働というものを次の世代にも繋げて行く、例えばキッズニアやアーカイブなどの機能を持って来る。建設労働に関わる人たちが安心して生きて行けるシステム、そういったものも必要だろうと、これは居場所に関わる話だと思えます。それから6ページに、50年の歴史の総括には、このまちの良さ、そういったものをきちっと見せて、それを活かして行くべきだろうというご意見をいただきました。さらに7ページのところでは、センターとして、日雇いで働く人のため、事業所に対する指導、或いは働きかけ、そういったものについてもしっかり進めて欲しいというご意見がありました。同じく7ページですが、日雇い労働の社会保険制度の整理など、職安の機能回復に向けた労働政策的な対応も求めて行きたいというお話がありました。さらに地域の実情に即した雇用保険制度の運用の必要性、そういうことについて7ページから10ページ辺りに掛けて、かなり議論していただいたと思えます。そして、職業紹介における中間的な搾取、こういったことがないように、という意見もいただいております。11ページでは、センターは職人レベルから今日のご飯のために働く人まで、様々な日雇いの仕事をもきちっと繋いで行くべきだというお話でした。さらに、センターを利用している結核検診などの多目的スペースを残すというご意見。さらには11、12ページ辺りで、センターの労働機能と福祉機能この両方の機能をしっかりと見据えて本移転のあり方を考えるべきだというご意見。本移転についてはここまでですが、12ページから19ページのところでは、当会議といったん切り離して、まちづくり会議の有識者から市長への提言について、マスコミの報道に関するみなさんからのご意見をいただきましたが、かなり丁寧に議論させていた

だいたところでは、このマスコミ報道に対しては、文書を配付しておりますが、本日の労働施設検討会議終了後、まちづくり会議の座長からみなさんの方にご説明するという扱いにしたいと思っております。また、後でそれについてご意見が出た場合は、少しお時間をいただきたいと考えています。それから、19ページ、20ページの辺りで、1月の第26回の労働施設検討会議でジェントリフィケーションについての意見、趣旨について、問い合わせ等々があった件ですが、この件について、ご意見をお聞きしたというものです。以上が、前回の議事の全体的な流れです。

それを踏まえて、本日の議題に進んで行きたいと思っております。前回は、本移転の機能の話と労働施設としてのあり方、或いは西成労働福祉センター、あいりん労働公共職業安定所の機能についても話がありましたけれども、今日は、本移転施設の3つの機能の話を進めて行きたいという風に思います。本移転に向けた機能検討に係る提案一覧というA4版の資料を前方にもプロジェクターで映していますが、これを映しながら、或いは配布した資料を見ながら、少し細かく振り返りを行ってみようと思っております。3つテーマがありますが、1つ目のテーマは、センター50年の歴史を今後活かす取組みについてです。たくさんの意見をいただいております。まずセンターのやって来た強みや中身を活かす。労働者が活性化することが基本である。地域の交流の拠点となる施設。そして屋根のあるところでの活用を意識することが大事だということで、労働だけでなく結核検診などを実施する場所を確保すべき。それから就労支援をさらに拡大するということで、男性だけでなく、女性や若者、高齢者、障がい者等々のいろいろな支援が必要ということ。また、労働福祉という観点から、国、府、市の連携が、今後も求められるだろうということ。チャンスがあることを見せる場所へ変えて行く。日雇い、建設労働者が守られるようにして行こう。もっと安心して、未来が見えるようにして行こう。そうなれば、駅前活性化の必要性もなくなるのではというようなご意見でした。活性化を否定するというのではなく、労働施設という観点で充実させる、或いは他の機能というのをやって行くことによって、センターの活性化が実現すれば、自ずと駅前が活性化するというそういう理解です。センターがやって来たことは振り返ったんですが、左下に戻ってアーカイブ、体験ということで、50年の経験を今後どう活かして行くのかという観点でいくつかの意見をいただいております。1つ目、シェアして未来につながる、伝えるアーカイブを作ろう。労働、子どもに建設人材の育成を目指すような場であるべきだということですね。2つ目に、働く楽しさを体験できる場づくり、建設を中心とした、或いは家づくりなどを含めたギッザニアのようなものを作ってはどうかという話。3つ目に、まちの資料を保管、展示する資料館として、壊されるセンターを資料として歴史に残して行くということですね。最後に高度経済成長期の工事現場や建築機械等を映像に残し、センターの果たして来た役割をきちんと解説するデジタルデータ、或いは常時流すような場所を作って行くといった話がありました。ひとまずこの50年の歴史を活かすというところについて、ご意見があればと思います。後で全体について、いろいろと議論をいただくことにします。

→ いいですか。疑問を含めてなんです、このセンター50年の歴史を今後活かす取組みでは、あまり時間を割いて欲しくないんですね。このためにあまり時間を割いて、本移転のどんな機能が本当に必要なのかというところで、時間を取ってもら方がいいのですが。これは誰か委員でも決めて素案でも作ってもらって、それで折に触れて見せてもらうという、それぐらいでいいんじゃないですか。

有 じゃ次に進んでくださいということですか。

→ 結局機能の方、新しい機能として本移転の中でどういうことをやるつもりなのかという、そっちの方に力点を入れないと、労働センターにいろいろ人件費を増やしたいという場合もあ

り得るでしょ。

有 機能に関しては6つね。

→ ここで決めて終わらないで、ポツンと出てきたかも知れないけれど、本当にそれでいいんですか。

有 6つ以外にもいろいろとあるんじゃないですかということですかね。

→ 先生方はまとめるのが好きだからね。

有 ちょっと待ってください。6つの機能があるという提案は、我々の方から1年前にさせていただきましたが、ただ6つで終わりだとは言っていないんですね。もちろん他にもあれば、適宜提案していただければ、我々にとってもありがたいことなんで。

→ そのための時間を取らないと意見の出しようもないじゃないですか。

有 この間ずっとやってきたつもりだったんですが。

→ いや、その雰囲気じゃなかったですよ。

有 そうですか。

→ 仮移転の話題ばかりでしたね。そしていよいよ本移転の問題に入るということでわくわくしていたんですね。ところが、その中でもまた仮移転がどうのとかね。具体的に誘い出すような議事の運営がなされていなかったと思うんですよ。

→ まあごもっともなご意見でしたけれども、ちょっとだけ過去の歴史を振り返ることが本移転に全然繋がらないか、機能の検討に全然繋がらないかということについては、少しだけ異論があって、この前にも言ったんですけど、ここに書いてあるセンターのやって来た50年の強み、中身を活かすと言っているけど、じゃ強み、中身というのは本当にどうやって確認したのということですよ。では、弱みの方を見たらどうなの。今日、配られたセンターだよりがありますね。私製プラカードはあかんという訳です。ちゃんと第三者に確認した内容で求人活動しないと齟齬が起きたときに業者に追求できない、だから私製では行ったらあかんよというてる訳です。センターが仲介する格好をしているから上手く円滑な労働条件が結べるんですよということですが、では、私製をぶら下げているときにどうするのか言うと、注意喚起と書いてあります。注意喚起って何を注意喚起するのか。労働者に注意喚起しているのか。私製プラカードで求人している業者に注意喚起しているのか、何がどう注意喚起をしているのか。要するに権限は何もないけれど、それでは不細工だからセンターの公式なものにしてくださいということ言っている。それを注意喚起と言っているのか。それは強みなのか、弱みなのか。もう1つ、この間、求人の森というのを新しいシステムですと言っていたが、私が見ていたら、そこに労働者との待ち合わせの場所の図が書いてあるのよ。センターの駐車場がずらっと書いてあるのはいいのだけれど、あっちこっち町の中にAとかBとかCとか書いてあって、太子の交差点に3つぐらいあったり、銀座通りに2つぐらいあったり、要するに路上求人じゃないですか。センターというのは、青空求人をなくすために大きなものが要るといって作ったのではないですか。50年経って、まだ路上求人、ここが待ち合わせ場所ですと言って載せているのですか。たまたま、センターの職員さんが草刈機の講習でいたので、あれはどうなの、路上求人は良かったのかと尋ねると、あれは待ち合わせ場所です。センターの中に入ってくださいとお願いもしている。お願いして載せているということで、結局、全然規制力がないのですね。路上求人というのは、今後、新しいセンターの機能として紹介するときに待ち合わせ場所とか、そういう形で認めて行くというシステムでやるのか。あれはもう正当なものなのか、合法なのか。それを織り込んでセンターの紹介システムを作るのか。私から見たら昔からやりっぱなしで、残って来ているのを強みのうちに入れるのかというような話ですけども、そういう自由な求人のあるところがあるから、みんな安心して仕事に行けるんですよというのが強みだと言うのか。それとも弱みでしたけど、どうするということか、そこら辺を何

か整理した方が良くないですか。

有 その話は、センター機能の対外的PRというところに関わる話だと思うんですけど、取りあえず全部挙がっているものを紹介してから、今の話も詰めて行きましょうか。よろしいですか。では、次のテーマです。テーマの2として地域の顔としての機能のようなものをしっかり充実させるという話があります。そこに挙がっているものを読んで行きますが、労働施設単体ではなく地域全体の顔にして行こうという風な位置づけで議論する。今後のこのまちのコンセプトが重要であろう。それについての議論はまだ十分に詰まっていはいないんですけどもね。そしてセンター跡地全体の顔を機能に変えて行こう。2つ目に釜ヶ崎の良さを体現するセンター、どんな事情があっても生きて行けるまち、多様性を容認して行くといったまちであり、その多様性というのは日雇い労働者、生保受給者、野宿生活者、子育ての人たち。さらに子どもたちが将来に希望が持てるような労働、仕事のあり方を子どもの頃から知る場所にして行こうということですね。そして今ある機能に追加すべきものとして、いろんな要望を挙げて行くと、職人レベルの紹介から内職レベルの仕事まで幅広く紹介できるようにして行こう。日雇い以外にも仕事があるようにして欲しいという風な意見もありました。若者の就労体験や職業訓練が出来る場にして欲しい。建築、宮大工、伝統工芸、鍛冶など大人でも体験できるような場を作ろう。海外でも働ける資格や免許も取れるようにして欲しい。地域、仕事、介護の情報とか相談機能も欲しいというようなことでした。そして既存の機能を残す、或いは強化するということで、ハローワークの役割をあいりん職安は果たして欲しいという強い要望がありました。日雇いという機能の重要性、ぎりぎりの人たちもいるのでしっかりと充実させるべきだという意見。手当て並びに賃金を得る場、これは特掃の人たちなども想定して稼げる場というものを別途考えていく必要もあるだろうという意見です。右の方はその他の機能案ということで、労働以外の或いは労働にも少し係りますけれども、こういうものが出ました。全天候型の体育館とか音楽スタジオなどがあれば、地域の人はありがたいという風な話とか、子どもたちの遊び場、体育館、ボール・遊具貸出しなど、地域の人々の交流拠点、作品展覧会・展示場、相談室、就労・教育・人権相談窓口などがあることが望ましいというような意見をいただきました。

次のテーマ3の方に行きますが、次のような意見をいただいております。センター機能の対外的なPRということで、機能と対象者が見えて来たときから、そういったものについて今後考えて行きたい。もちろん現在ある機能については、併せてしっかりPRして行くという取組みが始まっているということなんですが、それから住民に知らせる、ここでは労働施設としての機能に加えて本移転ではそれ以外の機能もある訳で、そういったものをきちんと知らせて行くということも大事だということだったと思います。3つ目にこのまちの持つサービスや機能を地域外の人にも触れさせることによって、このまちの良さ或いはこのまちに来てもらう。さらにはセンターでやっている機能を活用して欲しいという話だったと思います。その他子どもの声についてということで、現センターの機能を「ユーチューブ」とかに流して、広く周知してもらう。最後に子どもに優しいまち釜ヶ崎、労働も含めた文化センターといったものも検討して行こうという話だった訳ですね。

二人の委員からいただいた意見に関しては、もう一方の整理一覧の右端に本移転について我々の方から提起したものでして、既に議論したという扱いにはなるんですが、使い勝手の良い求人、求職システムを作って行く。多様な相談機能の充実、そして多様な求人者ニーズに応えるような仕組みを作って行くといった話をこれまでしていただいて来たということです。

→ 私覚えていないので、時間取らせて悪いけどもう1回おさらいしてください。

有 先ほどいただいた委員のご意見については、いわゆる青空求人の現状をどのように考えるのかといった話です。

→ 整理した順番で、覚えているところからおさらいしてください。

有 私も手元にフルバージョンの資料を持ち合わせていないので、全部お応えできないかもしれませんが、まず、使い勝手の良い求人、求職システムという分に関しては、実は仮移転のところで既にある程度実態的なものを積みながらやって行くということだったと思います。そこでは新たにまちづくり視点の事業をやるということで、IT等々を導入しながら、ということですが、確かに青空求人の業者をセンターに来て欲しいという思いがある訳ですが、規制力はないので今のままになっていると思うんです。そういう意味で、センターを利用する人が急激に減って来ているという事実があって、その流れをどう食い止めて行くかということが、私たちに課された大きな課題、或いは一番大事な課題だと、私は思っています。

→ それ先生口だけやな。口先だけやん。

有 それについてはみなさんたちに意見やいろんな提案をいただきたいと言っているんです。

→ だからね、求人を最大限増やすために、求人業者さんにたくさん求人を持ってきて欲しいよと。だからプラカードが正規のもんやとか、路上で人を集めたらあかんよとか、そんな難しいことは元々言いたくない。言わないので、とにかくセンターにだけは、条件を届けてね。現在は、多分そうなんだろうな。届け出さえしていたら、格好だけ付けたらマルで、あとは、お好きなようにどうぞというのが、新しい求人システムやという整理になった訳や。それで良い訳やね。それが共通理解で良いのか。

有 労働者がなるべく、センターに直接多く来てくれるように誘導して行きたい。そうすると業者も集まって来るという発想で、楽観論と言われればそうかも知れないですけども。

→ 今出来ていないのに、これから何が出来るの。今でも出来ることしていないのにやね。これから出来ることって何よ。笑わせたらあかんわ。

有 では、委員どういうことをしたらいいか。

→ だから、あいりん職安がきちんと仕事の紹介をする。権限を持ったところが、労働福祉センターじゃなくて。今まで言い続けてるでしょ。

国 委員がおっしゃっておられることは、私どもも以前からお伝えをさせていただいていますが、結局のところはまたお叱りを受けるかも分かりませんが、以前から何もしていない訳ではないんですけれども、職安の方も企業様の方に印紙購入通帳の切換えの際とかには、直接求人のご依頼も掛けておるのは事実でございます。結果として求人が出ていないということは現実なので、そのところは委員にお叱りを受けるところかも知れません。

→ 企業回りしてるの。

国 全くしないという積もりでやっている訳ではありません。

→ 企業回りはしてるんですかって言うの。

国 企業があいりん職安の中に来るときに、その印紙購入通帳のお話だけでなく、求人を出していただいけませんかという勧奨をさせていただいています。

→ そんなもんあかん。出て行って企業に直接行かんかい。そんなことしてるから求人が来ないんや。労働者幸せになるかいや。

有 今、議論になっているテーマについては、本移転になってからどうこうするというところだけではなくて、むしろ仮移転の機能の中でも、実際に新しい取り組みとしてやって行こうと提案させていただいたつもりです。それで1枚ものの資料の本移転に向けての機能検討の整理一覧の真ん中の部分に整理させてもらっています。寄り場の機能については、大きく枠で囲んだ下のところにあるんですけれども、ちょうど委員おっしゃられたセンター以外の周辺も含めた求人のあり方を検討しようという話にはしていたんですよ。それと国の方の事業として不安定就労対策の検討ということで、ここの中身についてはということでは、まだ十分出来ていないのが事実かと思

ます。

→ だから日雇いの仕事だけで収入が増えない。前もこの検討会議の中でも1回話が出たけど、日雇い以外の仕事も少しあるという話ではなかったのか。

有 それも、もちろんあります。

→ そのときはどうだっけ、西成労働福祉センターそのものは、そういう求人を出せる定款になっていないのではなかったか。別にどんな求人でも紹介してもいいという組織だったのか。

有 建設業に拘っている訳ではないです。

→ 特化している訳じゃなく、何でも一般求人も紹介していいのか。

有 現に今でも紹介していますし、開拓しています。そちらの方も。

→ 就労のシステム、求人の方とか言っているのは、日雇いだけの話なのか。それとも全部載せるようにしているのか。

有 一般もでしょうね。

有 日雇いに限らず広く仕事をすべきだという風に私たちは語った積もりです。

→ 一般求人も今ある西成労働福祉センターでも可能なシステムとして構築出来るということか。

有 今日は当事者というか、その委員が来ていないので、代理でセンターさんお話出来ますかね。

セ 今委員の方からありました求人の方、日雇いの現金と相対のプラカードを掲示しています。窓口の方ではそれ以外の一般求人を今もしています。一般求人については、日雇いと違って内容もいろいろありますので、個々人に求職相談があった方について、中に入らせていただいて相談をしながらその方に合った紹介をして行くということになります。

→ その人に合った職の紹介というのは、要するにハローワークの端末で探して紹介するということなの。それとも自分のところに来ている中からの紹介ということなの。

セ センターに登録していただいた期間の定めのない仕事の中からご紹介します。

→ 前から言っている職安の機能としてやったらどうかというのは。

有 それは我々の方から提案して出しています。

→ どうなったのか。

有 そこは国さんに判断してもらうしかありません。

→ 検討したのか。

国 今の段階で検討してこうですという形はあれなんですけど、以前ルシアスがこっちにという話もありました。そこだけでお話をさせていただきますと、結論から言いますと現段階ではルシアスを確実に持って来ることが困難なのは明確ですので、国の方はそれに代わって何が出来るかというのを全くやりませんというのではありませんが、今の段階でこうして行きますというのをお示し出来る場所には至っていないのは事実です。ですので、それは全く何も考えないというのではなく、何かを考えていかないと、ただルシアスについては、ひと駅しか離れていないということとか、いろんなことがあります。確実に移せますということではありません。

有 私の理解は、利用者がこっちに持って来て増えるか減るかの話だと思います。増えるということが確実に言えるのであれば持って来てもいいよというそんな話をしていたと記憶していますけれど。

国 先生がおっしゃるとおり、そこの測定のところもございませうけれども、現在は天王寺のところにある訳で、移るとなると今利用している方が、ここにあって便利なのになぜなくなるんだということも少しあるんですけれど、それはルシアスだけに限らず、大阪府内のハローワークも数が限られているので、管轄区域というのがあり、このまちに在って欲しいな、この市に在って欲しいなと、いろんなところがあるんですが、在るところからすると、移転してなくなるということ、便利やったのにどこ行くのかということになります。現行で言いますと、今ハローワークと

というのは何箇所でも増やせるかということ、むしろ逆行とは言いませんが、数というのはこれ以上増やすというのは、なかなか厳しい状況というところもありますので、そういうところも考えて行きますと、すぐに移すというのはハードルが高く、困難というのは否めないところもあります。ただ、みなさんのご意見をいただいたところがありますので、ルシアスのところではお話をさせていただきましたが、みなさんのご意見の出ているところの中で何が出来るのかということ、今後、検討が必要かなと考えています。今、確実にお話できる段階ではないので、今後、何かお出しできるものかと考えているところなのですが、今日のところはその点ご理解いただけないかなと思います。

→ センターの50年を振り返って、強みって何なのか。弱みって何なのか、強みの中で求人、仕事を紹介するっていう部分は相手任せであれ、求人場がなかったら紹介出来ないのだから、相手任せであれ、とにかく機能を担って来ました。とにかく、質が良かろうと悪かろうと、日雇いの仕事の情報は提供し続けてきましたということですね。それは強みか弱みか知らないけれど。

有 大阪だけでも関西一円の日雇い労働については、求人、求職の情報をしっかり持っているというのは、量的には減ってるということをどう考えるかということはあるんですが、しっかり確保して紹介業務をやっているというのは、強みだと理解したいです。

→ その強みに加えて、現在の変化の中で、他の常用の仕事も、どういう常用の仕事か清掃か何かよく知らないけれど、そういう仕事を僅かであれ開拓している、開拓する能力がある、それを活用しているというのも強みであると言えるのか。

有 私は、そう思っています。

→ 今話しているのは労働福祉センターの話してるの。あいりん職安の話してるの。

有 両方の議論が要るのですが、委員の話は西成労働福祉センターの話ですね。

→ センターでそういう強みがありますよという総括をして、なお、その範囲が職安が紹介しているほど広くはない。もっと違う要素を付け加える必要があるかないかの問題ですね。それをやるときに西成労働福祉センターが持っている職業紹介の、労働省から認可されているところだけで、それが出来るのか。要するに開拓の問題と紹介のシステムですね。開拓は、今の職員の体制でどんな仕事を探すのがいいのか、それとも相談相手によって違うから、前から言っているように職安の端末を共有できるのか、出来ないのか。或いは職安と一体とした窓口を作らなければいけないのか。組織そのものを見直さなければならないのか。それは福祉の分についてもそうですよね。西成労働福祉センターでは、労働福祉なのか、福祉一般なのか。それを今の組織が全部担えるのかって言うことです。そういう議論したいと思います。

有 委員に私が言いたいことを言ってもらった気がして、ありがたい話だと思っています。個人的には西成労働福祉センターでやれること、少なくとも、今の実情を見ると、単体でいろんな事業や日雇い以外の仕事を増やして行くのは、無理だという風に思っています。もちろん当事者団体は頑張ると思いますが、既にいろんな多様な就職紹介をやっている団体があるので、例えば大阪市の地域就労支援事業なんか、まずメンバーにある訳ですけども、そしてまたハローワークの求人求職のデータの活用というものを、どういった風に上手く繋いで行くかが大事だと思っています。それと職安の機能に関してですが、現段階の状況を私なりに理解すると、新今宮、あいりん総合センターのところに移転して来る可能性はない訳ではない。でも一定条件があると、その条件をきちっともう一度整理して示して欲しいと思っているのと、もし移転して来れないということになったときに、今のあいりん職安は、今のままで良い訳ではないですよ。では、どのような新しい機能をそこに加えるのかということ、きちんと大阪労働局として示す必要があると思っています。ちょっと厳しい言い方も知れませんが、この議論というのは、実は結構前からやっていて、ぼちぼち何か出して欲しいんです。はっきり言いますが、今は出せませんという

ことばかりずっと言われて来て、私も正直本当に出す気があるのかと思っているところはありません。それからもう一つ、今の最後に出て来た労働行政と福祉行政のところに関しては、これはやはり福祉なので大阪市さんの方で、或いは西成区役所さんの方で少し対応してもらわないといけない部分もあるかと思います。ここについて区役所さん、いかがですか。

区 今、労働施設検討会議におきまして、本移転に向けた機能論のまとめに係る議論をしておりますが、これまでいただいたご意見の中で、例えば居場所でありますとか、或いは野宿者の方の居宅保護とか本来的には福祉的な課題に属するテーマを議論するための受け皿として、もともと西成区でエリアマネジメント協議会という枠組みがございまして、その中の環境福祉専門部会を再開することによりまして、こういった福祉的議論を、座長を中心にこの会議で切り分けていただいて、エリアマネジメント会議で議論をして行ってはどうかなという風に考えているところがございます。

→ エリアマネジメント部会というのがあるけども、私も随分忘れてしまっている。どういう位置付けで、どんな部会があって、何を切り分けて欲しいと言っているのかな。説明してくれる。

区 もともと西成特区構想の中で、今申し上げました環境福祉専門部会のほか、他にもいろいろな部会を設けておりまして、そういった中で福祉的課題、例えて言いました居場所の問題とか、労働か福祉かという狭間的なものもいろいろあるかと思えますけれども、こういった中から福祉的な課題をピックアップしていただきまして、エリマネで議論する。そしてその中で逆に議論の結果労働の方でさらに議論する方が相応しいと判断していただいたものにつきましては、もう一度労働施設検討会議でフィードバックしてさらに議論を進めていただくということをやることによって、機能に関する議論とかがよりスピード感を持って取り組めるんじゃないかなという風に考えております。

→ エリアマネジメント協議会の構成メンバーとは、誰ですか。

区 もともと決められたメンバーというものはございません。その都度、課題があったときに、必要なメンバーを集めて議論を進めていたという風に聞いておりまして、今回申し上げました環境福祉専門部会、これは確かに西成特区構想の中で私ども区役所の方で事務局となって進めます。仮に今回の福祉的な課題を議論するに当たって、こういったメンバーで議論を進めて行くかにつきましては、みなさま方やこちらの事務局中心に選定等を進めていただきましたら、メンバーに入ってくださいまして議論を進めさせていただければなという風に考えております。

→ 会議ばかりやっていてもしょうがない。この会議だって3年間やって来ている訳でしょ。それをまた新しい会議でメンバー募って、今から会議したってしょうがない。だから大阪市の責任者が出て来て、みんなの要求に応えたらいい訳です。ここの問題だってそうだし、繋がって行く訳です。この労働部会だって跡地の半分だけで、労働は大阪府が持っている地域だけの中の話になっちゃう訳でしょ。あと半分は大阪市が持っている訳だから。どのような構想を持っているのかというのは、ちゃんと責任者が出て来て説明すべきです。だから大阪市は、ちゃんと責任者、担当を決めてこの会議に出て来て、ちゃんと説明すべきです。

有 一方で大阪市の持分の土地の活用に関しては、駅前活性化のところでも議論しているので。

→ 持分の問題ではないのではと思いますね。エリアマネジメント部会の説明も、じっくり来てないけれど。もう忘れてしまったからいいけれど、要するに、おっしゃったのは切り分けて自分ところで引き受けたいというのは居場所の問題ですね、センターフロアで寝てはる人の問題。そういうのは、現在の自立支援課か何かで担当するようなどころだけ拾っちゃおうかなと言うてる訳ですか。

区 我々が拾うというよりも、切り分けていただいた議論を、こちらでまた別の場を設けて議論させていただけたらと考えています。

→ 私が言っているのは、少なくともそんな自立支援課だけの話ではなくて、ここで言っているのは労働者もいろんな人が来るのだから、総合的にワンストップで問題対応しないといけないですよ、といった場合には現に野宿している人、釜で、日雇いで長くなって野宿にいたるおそれのある人だけじゃなくて、ぽっと来た人、この人の相談に西成労働福祉センターがワンストップで相談を受けるだけじゃなくて、もっと行政として窓口持って来るなりするような検討をしたらいいのではいか、して欲しいなと思っている訳です。ただ単に今の野宿生活者対策を引っ張って来いというようなことを言っている訳ではないです。

有 おっしゃったことは労働施設検討会議でもこの間議論して来たし、我々も委員の人たちのほぼ全員が同じ思いで議論して来たという風に私は認識しています。

→ 前に委員が、福祉のところは環境福祉部門か部会かどっかでやりますとか何とか言っていたのは随分昔かな。2年くらい前。そういう環境福祉部会って、あったのかな。それがさっき言っていたエリアマネジメント協議会の中の部会と同じものなんかな。

→ 4つか5つあったんですよ。

有 エリマネの中の一つの部会。

→ エリアマネジメント協議会のやつの。

有 中の一つです。

→ 区政会議の下にあるはず訳かな、確か。

有 そうです。

→ じゃあ、それを2年間もほったらかしにて、切り分けてどうたら、こうたら言うのは怠慢ではないのか。いまさらメンバーを集めてというのではね。

有 メンバーは前からのメンバーでそのままやるのではと私は理解したんですが。

→ そこらへん、いつまでたっても話は前に進まないですね。真剣にやってないな。

有 この間、ずっと福祉の問題どうなっているのか、横申した会議をしてほしいという話はして来た。

→ これ3年程やってきたんですけど、私はよく中身がわからずにいるんですけど。何も一つも結論がきちっとしたものが出たことないような気がするんです。仮設については、ある程度ここにやりましょうということでやったんですけどね。これから本ちゃんになってもね、もう少しね、何かぼやっとやって帰って頭の中何にも分からんままで、次また来たら同じような話をずっと聞かされている感じがする。そうじゃなくて、今日は一つのものをテーマ決めて議論して、それを決定出来るくらいの会議にする。そして、ここはやった、ここはやったと、一つ一つ決定出来る行くようなやり方でやって行かんと、いつまで経っても決まらない。そのうちに何かセンターが出来て来たなという感じになって来る。そんな思いが強いですね。戻って悪いけど路上の求人のごとも再々出ているけども、じゃあどうなんやと、一つも結論が出ないでしょ。法的にあかんのかどうか我々は分からない。法的にあかんのやったらあかんように処理したらいいし、そういうことが一切、あかんなあと言うだけで何も出来てない。結論が全く出て来ない。もう少し一つひとつ分かっている人も当然おるんだろうと思うけれども、だけど我々が分かるように結論出して行ってもらわないと、参加している意味がないですよ、ここへ出て来る意味がない。だから、そこら辺を上手く出来ないのですか。やっぱり。それともう一つ、これからいろんな形で就労の部分でも外国人が入って来ると思うんですけど、外国人に対してどう対応して行くのかということも、今まであんまり触れていないし、当然労働者はこれから先やっぱり減って行く、それと入れ替わりに外国人が増える気がするんですよ。その辺の対応も全然話も出て来ないし。いつも同じような話をして、時間が来て終わりました、また、次のとき来ました、そんな気がしてしょうがないんです。もう少しみんなできちんとかうやって行ってもらえたら、私にはありが

たいなど。分からんなりに物が言えるのかなという気がします。以上です。

府 来月ぐらいには、機能をとりとめる予定となっています。今、委員の方からお話のあったような、何が決まって何が決まってないとか、そもそも、これは何を検討しているのかということをお話を他の委員の方もおっしゃっていましたが、この会議では、平成28年8月からずっと、本移転に向けた機能をどうするのかということを検討していただいております。テーマは、主に6つテーマに加えて、思い出していただきなのですが、日雇い労働の研修とか、技能講習というお話でもみなさん方からご意見いただいたこともあったと思います。あと、職業紹介のためにどれくらいの空間的なボリュームがあるかというようなこともご議論いただいて、この間、柔軟にスケジュールを変更し、予定の期限が来たからこれで終わりするというものがないように、スケジュールを修正してまいりました。例えば、先ほど出ていました使い勝手の良い求人、求職のシステムとは、どういうことかなどを検討いただきましたが、私たちが経験していないことは、先進事例を実際に取り組んでおられている方を講師に招いて2回ほど勉強するなど、いろいろ工夫してきたと思います。他の委員の方もおっしゃっておられるようなこともお話があったかとも思います。相談機能の充実ということでは、センターは本当にいろんな相談受けているが、福祉的な相談で来てても対応できるのかとか、いろんなところとのネットワークをしないことにはセンターだけでは、何も完結するようなことはできないのではないかと、というようなご意見もいただきました。多様な求職者ニーズへの対応というテーマでは、若者とか女性などがこの地域に入って来られているけれども、こういう人たちに労働としてどう支援をして行くのかということについては、講師の先生方に来ていただいてご講演いただきました。これらはすべて本移転に向けた労働施設としての機能がどうあるべきか、ということをお話ししようということでした。8つのテーマについてずっとこの2年間、ずっとご議論をしていただいていたところですが、本移転まで放っておいていいのかということではなく、出来るものから先に取り組むべきということで、仮移転のときから、職業紹介システムは実施します。求職者や求人する事業所にとってもメリットのある新たなマッチングシステムについては、仮移転施設での実施に向け、求人の森を発展させた大型モニターを活用した職業紹介や、相談に来られた労働者さんがどんなところで今まで仕事されたかとか、どんな資格を持っておられるかとか、どんな講習を受けて来たかという情報をセンターの中で共有して、その人に一番適切な仕事をご紹介出来るような、IT化を活用したマッチングシステムを検討しました。既に今年は、センターではシステム開発を進めており、全く何も決まっていない訳ではありません。冒頭、私がご挨拶させていただきましたとおり、規模の議論につなげるための機能をまず、検討いただいているところです。要は建物作るときに、その機能を果たそうと思えばどれだけの規模が必要かということに力点を置いた機能検討をしていただいておりますし、ソフト部分であれば直ちにハードに影響はありませんので、いつでもご意見いただければ、柔軟にそれを検討して行きます。これまでも、別の委員の方から、労働に特化した議論をなささいということで二回程特化した議論もさせていただきました。その中で、町会の方々には直接関連が薄いかも分かりませんが、前回もお話あったような中間搾取の問題をばめとした様々な労働に特化した検討もいたしてまいりました。まずは、本移転に向けた機能検討をしてまいりましたので、他の委員からいつするか楽しみだとおっしゃっていただいて、こういうお言葉返すのも心苦しいのですが、この間、2年間ずっと本移転に向けた機能を検討させていただきます。

有 整理一覧を前にも出しますが、真ん中の部分は既に決まったことだということです。その具体化をどうするかの話です。

府 法的な規制などで、なかなか出来てない部分や、この50年間で、なかなか手付かずの部分もありますので、全て決まったとは申しませんが。

→ それはそれでいい。具体化が出来たり、なんかかんやするというのはいい。

→ ええことないやろ。

→ 労働施策は、西成労働福祉センターの範囲の中で決まって来たというお話ですね。私が言っているのは、それで決めちゃっていいのかということも言いたい訳です。例えば、求人者の森で太子の近所で車が4、5台昼間から停まって、兄ちゃんがうろうろしてタバコ吸って、その辺にばらばらばら朝は弁当のガラはほかすわで、ゴミの山が出来る。求人業者が一社来るとどれぐらいゴミが出る。それはただ単に求人場所を確保する、センター以外のところでもいいよ。それで法律で、良いとか悪いという問題じゃないですね。まちの美化の問題で、随分頭が痛いよ。私は、朝時々ゴミを集めて回っていましたが、ほんまに求人業者って、どんなにマナーが悪いか。そんなことも視野に入れて、いけしゃあしゃあと労働者が利用しやすい場所で待ち合わせをしているんですから、固いこと言わんでもよろしいでは済まないんです。

有 美化とかゴミの問題については、ここでは議論をしてこなかったです。私も念頭になかったという部分は、ちょっと反省します。

→ まち全体の問題としてシステムを考えようと言うのもある訳です。

有 私の個人的な、あるいは皆さんと共通していると思うんですけど、ずっと底流に流れてきている議論は、仮移転から本移転に向けて、求人システム、使い勝手の良い求人求職のシステムという意味は、路上求人はなくしていこうというところがずっと底流にあると思うんです。だから、道路交通法とかなど、無理やり追い立てる方法はありますよ。それが、威力があるのも証明されているのですが、それとは別に、本当に中でやった方が良い人が集まるみたいな、そういう使い勝手の良さということを導入することによって、路上での求人とかをなくして行こうということです。中でちゃんとブースなどを作って、というような流れになっていると思うんです。それはある種、合意出来ているように私は感じているんですけどね。

→ 合意とかなんとかじゃなくて、それは理屈として文章化して出さないと分からない。

有 そうです。その通りです。求人者の森というのも、そもそもあれは窓口で求人出来るような中間的な形態でしょ。散らばっていたのが、あそこで一括することによって。

→ 最初はそう聞いたから、待ち合わせは、どこでするのかと聞いたら、センターの中でそれを見ていた。この間、見たら何か路上でいっぱい丸が付いてるから、それは話が違うではないかと思って。

有 それはそう。ただ、方向性はそういう風に絞って行かれていると私は思ってるんですけど。

→ あんたらの使い勝手のいいようにしてるだけやん。労働者の使い勝手のいいようになってないがな。

有 路上求人ですが、そこでは駄目だということで、センターがやれという風に言ってもそうはならないんですよ、実態として。

→ ならないということを前提として本移転まで行っていいのか。そうしていいのか。まちの人たちがゴミの発生源をそのまま容認して行くのという確認をまずしないのか。

有 ゴミの問題に関しては、別途きちんと考えて対応する必要があると思っています。

→ そういう議論もしましょう。

有 ただ、ここで議論する中心は、労働の話ですから。

→ 現実問題、今のセンターのスペースで、なおかつ路上求人がある訳です。本移転になった場合に、今の話はいつも言うけれど、大阪市の分が半分抜けると、半分で帰って来るときに今の施設の半分になったとしても、僕は上出来だと思っただけけれど、それでも半分になって路上求人が解消するっていうのは基本的に考え辛い。

有 私もそう思います。

→ 職安さんの、ルシアスが無理やと先ほどおっしゃっていましたが、どの程度それは議論されて、無理だと言うことになったのかが、すごく分かりません。

有 それは、大阪労働局の中での議論ですか。

→ 本当に、まず移転をしないというのが前提にあって、議論をされているような気がするんです。せっかく前にも私言ったんですけど、三明町というか、あちらにある職安なんかすごく不便な場所でも、職業を探す人は行くんです。天王寺が便利なのは分かるんですけど、新今宮というところもすごく便利なところじゃないですか。駅から近いところに来るのに、そこに移転することがどうして人数が減るといふ風に考えるのか、よく分からなくて。確かに天王寺って便利かも知れないんですけど、別にルシアスのところにもあって、新今宮にもあって、二つにあるよりも、それこそ今度新しいところが出来るところに全部一括して職業を紹介するところが一つになったら、それこそ労働者の方々のゴミの問題とかも出ていましたけれども、もっとたくさんの人たちが集まるところになったら、もうちょっと美化の問題に関しても真剣に考えなくてはいけなくなって来るだろうし、規模を大きくしてというか、日雇い労働者向けのものも、それから一般労働者向けのものも一緒にしてしまっ、一つ大きいものを考えて行った方が、何かといろいろな対外的なことに関しても、もっといろんな対策が真剣に考えられるんじゃないかなという風に思います。職安を移すっていう考え方で話し合いをされたことはあるんでしょうか。移してみようと、思いっきり何か変えてしまわないと。

国 実際の問題として、移す、移さないということではなくて、さっきも説明があったように、なかなか場所を変えてしまうということは、いろんな制限があってですね、実際、動かしてみたら、ひょっとしてそういうニーズがあって、利用が増えるっていうこともあるかも知れないですけども、やっぱり現状こういった部分である程度人数とか利用者の数が増えて、トータルで良くなるということが現段階できちっと読めないと、なかなかその議論は難しいなっていうのはあるんです。おっしゃっている意味は分かるんですけども、実際、別にここに限らずなんですけれど、大阪にある他の安定所を例えば仮に動かすとしても、やっぱりこう制限がかかるというか、なかなか本当にこう利用者の数が増える、効率化されるとか、ましてや今まであったものをさっき言ったみたいに一つの大きなものを作って閉めるということは、ちゃんと効果がないとなかなか進めないというのは現状であります。

有 どうやったら分かるんですか。どうやって調べるんですか。だから、分からないっていう事実と、実際どうかっていう検証とは、どうすれば検証されて、それが分かるかっていうことを今聞かれてると思うんですけど。

国 そうですね。

有 この議論をこれ以上繰り返さないためには、どうしたらいいかっていうことを言っている。

→ 移すっていうのを前提で議論されたことはあるんですか。

有 出来ない理由じゃなくて、するための方策はどうしたらいいですか。

有 ここの名前でもって、あなたがたの上の方に要請すると、そういうまとめ方をするというのも一つの方法だと私は思っているんです。そもそも、この質問に答えられない方々だと僕は思いますからね。だから、ここでそういう風にまとめて、それを一つの方向として要請すればいいんじゃないかと、私は思っているんですけど。そうしたら、もっと高い見地からの判断がされることだってあるでしょう。

→ 今話を聞いていて、多分ここにいる方たちのほとんどは、職安に、ハローワークに行ったりしないだろうと思いますけれども、委員のところなんかは利用者さんが行くからよく知ってらっしゃるけれども。どう考えたって、ルシアスは別ですけど、阿倍野職安のあるところと新今宮を比べれば、阿倍野職安のあるところなんか、あんなところに仕事をわざわざ探しに行きませんよ、

あんな遠いところ。何であんなところにあるのか知らないけれど、そんなもんちょっと考えただけでも、どちらの方が求人する人たちが多いか、多くなるか、多くないか、なんでそんな答えが出て来るんですか。新今宮に作った方が絶対多いに決まっているじゃないですか。やっぱり議論の前提がね、仮定としてこっちに作ったらどうなのかっていうのを一度検討するべきなんじゃないですか。

有 利用者の意向調査をするとか、そういうことを基本はどこでもやるはずなんですけれど、そんな話が一言も出て来ないので。

→ そういう値打ちがないからですか。誰か安倍さんと食事をして、安倍さんがいい話だねって言ったと言ってあげたら、前に進むかも分からない。

→ 何かが大きく変わらないと、せっかく新しい良いものを作ろうっていうときに変わらないと思うんですよ。

有 そういう宿題が出たということで、しっかりとそれを受け止めていただく、ということでもよろしいでしょうか。

→ それと、もう一つよろしいでしょうか。流れに関係ないかもしれないですけど、先ほどちょっと外国人の労働者の問題という話が出ていましたけれども、馬淵生活館の問題を調べて来ますと言って、あれはどうなったんですか。

国 馬淵の方は、当然届出自体の方は計画を出されていて、今、跡地の方はご存知だと思んですけど、今、離れてますよね、工事をしていて。具体的に、まだ、こうやりますよというのはうちの部署じゃないんですけども、そこには細かいことは、まだあがって来ていないんです。それは、だから多分、やる前に絶対あげて来ない訳はないので。ただ、前にも話させていただいたように、現段階で違法であるとか、うんぬんであるとか、そういったことに引っ掛かっている訳ではないことは事実なんです。

→ 僕らみたいに単純にあんまり知らない人間からすると、就労ビザを持っている人っていうのは、就労先があるから就労ビザを持ってる訳でしょ。

国 ですので、だいぶ前だったかも分かりませんが、在留資格とか、いろんなことをこの場でお話させていただいたと思うんですが、それが馬淵さんの跡地でやって行く事業者、あそこ自身はそのことももちろん現段階で、事は進められてないが理解をされておられるということなんで、当然それに則って、行ける方の仕事を紹介するとかそういうことをするということは全然違法にはならないのですが、誰でもいいからといってやると、それは当然委員おっしゃるように引っかかって来るところは出て来るかも分かりません。

→ 表向きは、就労ビザを持ってる人の紹介です、みたいないうことが書いてあって、実際に例として何が上がっているかって言ったら、コンビニで時給いくらです、みたいなのが載っていて、全然違うじゃないですか。おかしいじゃないですか。そのコンビニでいくらっていうのは、さっき言った在留資格の中で働くことのできる時間の範囲内のことなんですか。

国 そうです。例えば、分かりやすく言うと、外国人の留学生の方、夏休み期間とかそういう時には時間数は限定されるんですけど、例えば、資格外活動といって、それを取れば一週間の間に28時間以内のお仕事でしたら出来るということになります。

→ カラオケ居酒屋なんてところでも働けるのか。

国 簡単に言いますと、アルバイトが出来るということになります。

→ その仕掛けの範囲内でちゃんと職業紹介してるのか、どうかね。

国 しているのかというのは、今後、計画としてあそこの跡地でやって行くということになる訳ですから、当然、実際のところがそれをやって行く中で出来ていなければ、当然、指導なり引っ掛かって来ることは出て来ると思います。

→ 労働局さん大変だね、ほんとにしっかりやらないと。

国 ただ、労働局もそうなんですけれど、当然、そういう在留資格というものになってくると、今度は入国管理局なり、そういったところも絡んできますので。労働局が何もしないという意味ではないです。

→ 労働局が、しっかりしないと駄目です。

国 だから、労働局の中に今言っているところも含めて、要するに派遣とか人をそうやって行くということになると、職業対策課ではないですけど、労働局はたくさん部署がありますので、その部署はそういった申請を受けてしていますので、もしそれが整っていないとか、当然やって行くに当たっては計画を出して来ますので、その段階でそこが整っていないのであれば、はいどうぞという訳には行かないでしょう。

→ そういうレベルの中で、そういうレベルのものを作るとかなんとか、そういう大阪市さんにしっかきしてもらわないと。大阪市さん、いつもそっち側に居るけど、何かただの傍観者のようになっているけど、やっぱり入って来てもらわないと駄目なんじゃないですか。

有 席が本来委員で、ここは全部埋まる予定になっているので、それで遠慮されています。

→ 西成区役所さんが、大阪市を代表しているんですか。

有 そこはどうでしょう。もちろんこの議論の中で各部署に直接関わる話が出るときには、或いは出たときには各本庁の各部署から人を出てもらうという、その合意は出来ています。

→ この会議自体が労働施設に関する会議なので、直接は関係ないのかも知れないけれど。

有 居場所の問題や福祉課題も、もちろん議論するときには、福祉の部署から人が出てもらってというの、これまでもやって来たと思います。

→ 僕が考えるのは、大阪市がここでもいろいろ出て来ますけれども、子育て何とかかんとかというそういう話は出て来るんだけれども、今、地域の中を見ても、この間の話であったけれども、なかなかそういう風に子育て世帯の住宅なんかがないとかという話がある訳じゃないですか。そういう話をするときにでも、市営住宅は小学校跡地に移ったけれども、やっぱり基本的に今入っている人たちの住宅な訳でしょ。そうすると高齢の方がほとんどですよ。子育て世帯の人たちって、どこに入って来るのかな。

→ だから、それは幻想があって、第二住宅は、もうほとんど空いているのか。まだ、どれぐらい詰まっているの。

→ 70くらいじゃないの。

→ 70、あと何室。

有 第一住宅については、子育て向けの間取りの部屋も何室か用意しているみたいですけどね。

→ 結構広いな。第一住宅は、何人移る予定なの。

有 最終はまだ分からないですけども、おそらく完成時には一定余るだろうと。一定ってまだ確定していませんけれども。

→ 全部埋まるの。

有 多分埋まらないんじゃないか言われています。ただ、そこに第二住宅の方が移るのか、そういうところに子育て世代の人が入るのかは最終決まっています。

→ 公募抽選するかどうか、まだ決まっていないのか。

有 ただ、子育て世代を意識された提案にはなっています。計画上、第二住宅が出来るときにそういう方々に入っていただくという話は、まだ住宅部会での議論になっています。

→ 大阪市は、散々そういう問題を、子育て世代呼び込むんだということを宣伝して来た訳でしょう。何でそんな、余るか余らないか、みたいな住宅の数で事足りるんですかね。言ってきたことを実現出来ないじゃないですか。だったら、また新しく作ったセンターの上を住宅にしると、何で言

わないんですか、大阪市。そうやって、どんどん、どんどん人を増やせばいいんじゃないですか。なかなか、今ある簡宿のところを建替えと言ったって、みなさんこの間、資本がないとか、跡継ぎがないとかで、なかなか進まないという話をしていたんじゃないかと思うんですけども。だったら、大阪市が市営住宅作りなさいよ。新しいの、センターの上に。

有 私が住宅担当じゃないので、よく知らないですが、今おっしゃるテーマについては、有識者、住宅の部会を中心に、地域の木賃アパートをリノベーションして、もう少し快適な居住空間を作って、それを呼び水にして子育て世代にも来てもらうというプランはあるんですが、やっぱり行政の後押しが絶対いるんですよ。そこの部分が私には何も見えない。ひょっとしたら見えている方もいるのかもしれませんが、私には見えていないので、おっしゃることはよく分かるなという話なんですけれど。それから、就職に課題を持っている人たちの支援をどう作るかという話が、先ほどあったと思うんですけども、実は行政のレベルで言うと、就職困難者支援は市町村の課題なんです。実際やっているのは、既にやっているのは、生活困難者の就労支援もそうですし、生活保護もそうですし、それから大阪には他の自治体にはない地域就労支援事業というのがありますが、これは大阪府が2002年に音頭を取って作りましたが、各市が事業主体なんですよ。大阪市もそれはきちっとあります。これはこの西成のいろんな部会には一切関わっていない部署が担当していますけれども、いずれは、そこにも出てもらわないと駄目だと私は思っています。因みにその業務委託でこの4月から受託したのは、前に講演に来ていただいた方がところが受託しています。

→ 今、西成でも津守とか、すごく人数が増えていて、小学校もすごくクラスが増えているって言う風に聞いているんですけども、何でそこに人が増えたのかというのを考えていただいたら、このあいりん地域の中に子育て世代を呼び込むということも、西成区の区役所の中でも分かるんじゃないですか。

→ そりゃ労働者がおるからや。あの付近に。環境が悪いから。津守の方が環境がええからや。

→ 津守も南津守だけなんですよ。

有 北ではなくて南の方なんですな。

→ あそこはね、工場が、今の造船所があった時代にいろいろあったのがなくなって、工場がだいぶ減ったんで、建売がものすごく増えています。そこに若い世代が入って来ているんです。南津守の小学校だけが教室足らないようになって、隣の津守小学校は余っている状態というような、ちょっとおかしな格好になっています。

有 他の有識者なんかの調査によると、まさにそのとおりなんですけれど。だからちょっとした対策を住宅関係のそういう対策を打つだけで、人口の流れに関してはすぐ上向く兆候にある。それぐらい逆にやせ細っているから、逆にそういう対策を打つことによって、流れは変えられるという風に言っています。

→ 民間でやって人口が増えたってね、一戸建ての家を二つに分けて、生活保護世帯を2世帯入れて、人口が増えたって言うところがある。

有 そういうのはまた別ですけども。

→ そういうのと同じこと。

有 いや、南津守はそういうのじゃないでしょう。

→ 要するに売りにくいところがあって、それを建替える力がないから、リニューアルして、シェアハウスとか何とか言って人口だけ増やすというのは、これは貧困を呼び寄せるだけの話で、ほんまに人口が増えて喜ぶかという話になるね。

有 いずれにせよ、ハウジングの話というのは、この5年、これからの重要なテーマになっていて、提言でも述べさせていただいたんですが、区さんも、それから市もですね、ハウジングについて

は具体的な動きをしようとなっていますので、今言われた子育て、いろんな子育て層がいますので、そういうのをこのまちでどう考えていくかというのを、そのハウジング部会って言うんですかね、その関連のところで、もっと議論をちゃんと今みたいに話をして、またここにフィードバックするという風にさせていただきます。

有 住宅も大事な労働に関わるテーマで盛り上がりましたが、少し議論をしていただいているということなので、今回はそれを楽しみにしたいと思います。

→ あの人言ったの問題あると思うよ。労働者いるからやって。何を言ってるんや、労働者がいるからビルが出来て道路が出来るんやんか。労働者の何を見ているんや。

→ 人が減っているというのは、津守の方が増えている言うから、津守の方に労働センターがあるのかわからないのか、私は知りませんが、ここにはあるから人があんまりね。一般の生活をしている家庭は、あそこでは労働者が朝から鉢巻巻いて酒飲んでウロウロしてる。だから怖いと思って行けない。

→ 労働者のこと分かってもらおうと思って、あんた方も来ている訳やし、僕らも来ているんやんか。それまた労働者を横にやるような発言したらあかんわ。

有 いやそういう意味じゃないですよ。

→ いやそういう意味じゃない。何で少なくなったんやいうから、そういう人が多いから、人は敬遠して来ないんや。

→ 馴染めない人ってのは、多いよ。釜ヶ崎支援機構が出来て3年目ぐらいに、阿倍野職安に求人出したやんね。で、高槻とかいろんな所から面接に来はった。女性もいた。センターの脇通ったら、裸で一杯飲んで寝てた人がいたんやね。で面接来はった。

→ 何であかんねん。何であかんねん。

→ で、私よう来ませんわって。いや、裸で寝ても悪気ないんやでと言うと、悪気がなかろうが、よそでは見ませんし、私には馴染めません。そのレベルは、いい悪いじゃなく馴染めんわな。

→ 何があかんの。

→ あかんとは言わないですよ、あかんとは言わないですけど、他の人にそれを見に毎日来いとはよう言わんわな。

→ そんなこと言ってるんちゃうよ、俺は。

→ だからね、子育て世代については、私の考え方は、小中一貫校が出来るときに教育委員会に徹底的に言ったのは、とにかく、いい学校作ってくれと。今の若い世代は教育がものすごく関心があるんでね。教育の内容によっては、どんどん入って来るんですよ。現実に大阪市内でも、そう言われている学校の周辺は、どんどんマンション出来たり、家が出来たりで子どもが増えている地域もある訳ですよ。だから、ここも徹底的にそれはやってくれと言って、それだけは頼んでたんです。ということは結果的に今、子どもが地域に少ないけれども、足らずまいはいろんなよその、都島であったり大正であったり、よその区からも来ている子どもも、今はいるんですよ。それは何でかと言ったら、やっぱり一貫校としていい学校やと親が認識しているから、わざわざ電車乗せて来させているんですよ。そのうちにそういう風になって、今度市営住宅が出来たらそこに住んで、通わせる人も出るやろうし。地域は言うと、土地もよそよりは安いし、空いている土地もようさんある。そのうち業者が出てきて建てる言うたら、若い人も入ってくるやろうし。やっぱり相乗効果でそういう風になって来るんでね。とにかく、ここで何を特徴にこの地域を売っていくといたら、教育なんですよ。だから教育はしっかりやってくれて、やいやい言っているんですけども。片方で労働者がいたらいいんですよ。それは仕事やから。仕事は仕事。だけど教育の問題についても、ここは特化して行くんだと。若い世代が絶対に寄って来るんですよ。だからそれ何とか、大阪市も府も含めて、一緒にそういうことも含めて考えてもらわないと、と

思うんです。西成区は世間で言うたら悪いイメージですけども、西成は歴史があるんですから、やったら、絶対に復活するんです。やる気があるかないかの問題です。

有 はい、ありがとうございます。

→ 6月に取りまとめると言ってるじゃないですか。取りまとめのときに、従前から労働部会で話す内容かどうか分からないみたいな、振り分けの問題出て来ますよね。これはどこが受けるんだろうかという問題がありますよね。取りまとめのときに出たアイデア、想定される具体策、で具体的な担当部署、だからこれは労働部会じゃなくて、こういう部会名に変えて、ここも来て頂戴みたいなまとめにしてもらわないと、埒が明かんよ。

有 おっしゃるとおりかと思えます。これまで私の方ではかなり具体的なものを提案して、皆さんたちからも意見いただいて、それを集約して出しているつもりだったんですけども、出し方、整理の仕方が相当拙かったなど、反省しているところです。そういう意味では事業名だけ羅列しているだけで終わっているの、その事業の中身、現時点でやれる中身、それを示すと同時に、次の課題、これを具体化するに当たってどういうところを詰める必要があるのかという、次の議論の課題を示すと同時に、今委員がおっしゃったように、労働以外の担当部署もあれば、そこを交えて議論する形の設えで整理して行くというのは、おっしゃるとおりかと思えます。それともう一つは、いつまでもと言われているところについては、やはり一定スケジュールを明確に見直しながらですね、明確に示して行きたいと思っています。6月、機能に関してそこで議論が終わりではなくてね、これまでの議論を、以前に比べればかなり煮詰まった議論が出来ていると思うので、それを整理するという事です。もちろん、その後も、先ほど言ったような形で今後の課題がある訳ですから、それはさらに、議論する場はもちろん作って行きます。併せて、今後は規模の話、それを7月以降しっかりやって行こうと思っています。私の方からは以上です。

→ この抗議文の説明は、これいつ出した、日にち書いてないし。

有 それは最後にやります。

→ 最後にやるの。日にち書いてない。

有 確認しますが、規模というか配置についての検討ですね。これについての検討は、既存施設の撤去等の状況も踏まえる必要もあるので、現状どうなっているのか、ちょっと確認しておきたいと思えます。この点、事務局よろしいですか。

府 座長からお話がありましたとおり、一定機能を取りまとめて、ハードに関連する機能、影響を及ぼす機能についてご意見をまとめていただきましたら、今ある場所に、第二住宅も含めたこのエリアに戻って来なさいとなっておりますので、戻ることとなります。この場所は、今、どんな形状になっているかという、建物で全部埋まっています、空いた敷地は何もない中で、それぞれ小学校跡地に移転するという個別具体的な事業が進んでいます。ただ、撤去の方法については、まだ具体的に検討が進んでおりませんので、関係者が一度集まりまして、今後どういう形で撤去に向けた検討をして行くのかということなど、内容について確認させていただきます。出来れば、報告出来る内容がありましたら、次回報告させていただきたいと思えます。座長、それでよろしいでしょうか。

有 あと、労働施設検討会議に関して、このセンターだよりは何か、配布するだけでいいんですかね。コメントありますか、よろしいですか。では労働施設検討会議の議事の案件はこれで終わりということでもよろしいでしょうか。

→ センター50年の歴史を今後活かす取組ってね、私のイメージではセンター50年とは負の歴史でしかなかったと思っているからね。あんまり、良かった良かったみたいなんでね。アーカイブだどうだと言われてもじっくりしないんです。センターの役割はね、ちゃんとしていたらセンターなんて必要なかったかも知れない。委員が言うように職安がやったらええというように。そ

れを覆い隠す、実体経済に合せた苦肉の策としてのセンターだった。だから、矛盾を背負ってやって来た訳です。手配師もね、暴力団だろうがなんだろうが仕方ない訳です。現実的には動かないから、それをセンターはこなして来た訳だ。職員が悪いことをしようと思ってやったのではなくて、一生懸命改善しようと、職員は職員で頑張ったけれども、一つの性格としたら、そういう悪を覆い隠すイチジクの葉っぱ的な役割が本質だったのです。だから、そこからいろんな労働問題とか賃金不払いとか、殺人事件まで発生した。だから私は一生懸命それをやって来た訳です。

有 そういう取組みも私はちゃんと。

→ だから、そういった問題も含めてアーカイブでもするんならいいけれども、何かセンターがあったから、良かったねみたいな発想で終わって行かれたら、それでは困るんです。

有 おっしゃるとおりです。

→ しかも、それは、また覆い隠すような曖昧なセンターを存続させて行くことと同義語になるからね。だから、本当に論議したら極端な話、今みたいなセンターなんかいらなくてことになる。だから、私はそんな議論をしたくないから、今後はね。本当に、そんなのを目指さないようなセンターを作ってもらいたいから、あんまり言いたくないんだけど。そこら辺で、特に2010年ぐらいからかな、センターが転換しはじめて、それまでは、日雇だけを紹介しておればいと、ふんぞり返って何もしなかったから、就業支援センターみたいなものが出来たんです。実態に合わせて日雇求人以外も行くし、いろんな実態に合わせて一般求人もしないと、生き延びれないと言って、四苦八苦してやって来て、そういう萌芽が芽生えている訳です。女性も何とかせないかん、若者もこれからどう受け入れて行くかという話になっているんだから、そういったこれからのニーズをきちっと受け止めて反映できるセンターをどう作るかといったところで、ああでもない、こうでもないという論議は、大いに建設的でいいと思う。ただ、アーカイブがどうのこうのと言いついたらぐちゃぐちゃになるからね。私はあんまり、言わないで欲しいと思っています。委員のアーカイブもあるからね。

有 分かりました。

→ アーカイブについては、私にもいろいろ手元の資料もどうしようかなというのもまだあるから。それは意見としていいんじゃないですか。前日も言っていたんだけど、路上求人の場所とか台数とか調べると約束があった話が、以前他の委員さんが言っていたみたいに、今度の新しい規模のところ、車来ないんなら、路上でみんな賄うのなら、寄り場はいらぬのでは、という話にもなるのでね。そういう調査の報告をしてと、この前お願いしていましたね。

府 まだ整理の方がついてなく、すみません。全部のデータも併せてお渡ししたいと思いますが、もうしばらくお時間いただきたいと思っております。申し訳ありません。

→ 規模の検討するときには、出てこないと拙いよね。

有 その予定で、準備は進めているところです。

→ もう一つ言っておくと、昔は相対方式でずっとやって来た訳ですね。これは初代の所長、当時の交渉した人に話を聞いたんですけども、初代の職安の所長は、確かに対人買収は違法ですと。ただ、社会的に必要なんだという言い方もしていたと聞いている。現実的には、そうしないといかんかったんだろうね、多分。だから、相対方式がいいとかよくないというのも困るんです。都合のいいときは業者に求人させて、都合が悪くなったらばっさり切り捨てる、合法的な機関として存在していた訳です。だから、野宿の問題も顕在化したし、野垂れ死も顕在化したんです。それをそういう風に合法的にさせて来たのが労働センターの仕組みです。それを踏まえた上でセンターを論議しないとあかん。本当にするんやったら。

→ それで労働者がどうなって来ていたかが大事な。

有 いただいたご意見は、しっかり受け止めてですね、活かして行きたいと思っております。ちょっと議論

から相当外れて勘弁いただきたいと思っておりますけれども。今回は、しっかりとまとめを皆さん方に提示して、それでいいのか、またいろいろご指摘、ご批判をいただくことがあると思っております。それも丁寧にフォローアップして最後まとめて行きたいという風に思っております。

では、最後ですが、有識者会議の代表の方から、毎日放送の件について、皆さんによりしくお願いいたします。

有 前回の会議で出ておりましたが、毎日放送のVoiceです。2018年4月18日の放送に關しまして、皆さんにもご心配お掛けしまして申し訳ありませんでした。いずれにいたしましても、あの放送自体、我々有識者としても、看過できない問題だという風に受け止めまして、会議の後、有識者のメンバーで抗議文を毎日放送の方に出させていただきました。先週末に出しております。内容につきましては、ここに書いてあるとおりなんですけれども、2つ提示しております、テロップの中にもありましたように、三角公園が農園に変わる西成というメッセージが出されておりました。その中でも三角公園とか都市型公園とか計画については、議事録も当然提言等について西成区のホームページに掲載しておりますが、全くそのようなコメントはしておりません。今までの議論の中でおそらくデスクと言いますか、いろんなところで言葉を繋げてあのような形で報道されたのではないかと感じていたんですが、少なくとも、特に三角公園というのはこの地域のシンボリックな場所でもありますし、そういう話はしておりません。おそらく報道としては、それが分かりやすいとして出したんだろうと思っております。いずれにしても、そういう誤解を受けるような、信頼関係を崩すような報道については、遺憾でありますということで、丁寧な報道をしっかりと欲しいということでお話をし、抗議文を出させていただきました。それで今後の対応については、十分に地域事情を把握した上で、誤解を解くための報道をやるということと、それから地域のことをちゃんと分かっていたか、そういう場を記者であるとかデスクとかに来て勉強して欲しいというところを出さしていただいております。まだ返事はありませんけれども、こういった形で抗議文を作って提出させていただきました。

→ いつ出したかというのと、誰宛に出されたのか。

有 報道部長です。

→ 報道部長。いつですか。

有 先週末ですね。

→ だから日付けで言ってください。

有 先週末です。

→ メールで出したのか郵便で出したのか。

有 メールですね。

→ いつやって。

有 26日です。

有 26日は土曜日やけど。

有 26日に出しました。

→ 郵送された。

有 いやメールです。

→ あっメールで。

有 はい。相手からの反応をしっかりと待ちたいと思っております。場合によってはまた続きがあるかもしれませんが、どうもありがとうございました。その他の報告事項について事務局の方からお願いいたします。

府 労働施設検討会議の議事の取扱いですが、本日、資料としてお配りしました議事概要案ですが、一週間後、6月4日までに議事の内容について、発言の趣旨とは違うとか、誤植等のご意見につ

きまして、私ども事務局までご連絡いただきたいと思います。次に、区のホームページにご掲載いただく第29回議事要旨案も資料としてお付けしております。なお、第28回3月19日開催の議事概要については、府のホームページに掲載しておりますので、またご覧いただきたいと思ひます。

最後に、来月6月の第31回の労働施設検討会議の開催ですが、6月25日(月)こちらの場所をお借りして、午後7時から開催させていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。以上です。

有 どうもありがとうございました。

府 本日は長時間に渡りお疲れ様でございました。これをもちまして、第30回労働施設検討会議を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。